

2022年度学校関係者評価報告

1. 日時 2022年7月 1日(火) 14時～16時
2. 場所 愛仁会看護助産専門学校 2階 会議室
3. 出席者

評価委員:5名

(業界関係者)	八田武志(関西福祉科学大学 学長)
(業界関係者)	松原正明(愛仁会本部 常務理事兼局長)
(業界関係者)	増山路子(愛仁会本部 看護担当特任理事)
(学校運営専門家)	水口正子(明石医療センター附属看護専門学校 副学校長)
(卒業生)	池上 梓(愛仁会看護助産専門学校同窓会 会長)

学校出席者:11名

清水富男	愛仁会看護助産専門学校 学校長
木村幸子	愛仁会看護助産専門学校 副学校長
増本綾子	愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事
小林理絵	愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事
大石有香	愛仁会看護助産専門学校 助産学科教育主事
長嶺洋子	愛仁会看護助産専門学校 看護学科教員
西山玲子	愛仁会看護助産専門学校 看護学科教員
長澤亜由美	愛仁会看護助産専門学校 看護学科教員
伊藤多恵子	愛仁会看護助産専門学校 助産学科教員
澤崎隆志	愛仁会看護助産専門学校 事務部長
川口璃子	愛仁会看護助産専門学校 事務職員

4. 会議の概要

- (1) 事前評価資料からの質疑応答及び書類審査
- (2) 昨年度の評価結果コメントに対して
- (3) 評価者協議
- (4) 講評

評価項目については、自己点検・自己評価報告書の基準に基づき以下のとおり実施した。

I 教育理念・目的・育成人材像	VI 教育環境
II 学校運営	VII 学生の募集と受入れ
III 教育活動	VIII 財務
IV 学修成果	IX 法令順守
V 学生支援	X 社会貢献・地域貢献

5. 評価結果

評価項目 基準 I～IV、VII～IXが「適切」 基準 V、VI、Xが「ほぼ適切」の評価

6. 今後の取り組み

各評価委員から貴重なご意見を頂き、今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。

以上

2021年度 評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念・目標	3. 6	4: 適切
	本校の特色として、設置主体である法人の病院より、講義のみならず技術演習ならびに OSCE 等において患者役やファシリテーター、試験官として現職医療者の技術演習の協力支援を得られることにある。また、実習受け入れ先の実習指導者である看護師と月に1回定期的な実習指導方法に係る打ち合わせや検討会議を開催し、年に1回研修会を企画するなど専門実践現場である病院と共同して教育実践に努めている。このことが就職率、国家試験合格率においてほぼ100%の結果につながるものとして継続していく。	特になし
II 学校運営	3. 6	4: 適切
	運営方針の職員への浸透度について、学校の運営方針が職員個々の目標管理につながるような周知方法と確認が必要である。また、職員の質向上に向けた自己研鑽の時間確保に向けた業務改善、タスクシェア・タスクシフトも検討したい。規程やマニュアルの見直しと周知および運用の徹底も図っていく。	特になし
III 教育活動	3. 7	4: 適切
	各学科ともに学生からの授業評価や講師からの意見、学校関係者評価、教育課程編成委員会からの講評をもとに新カリキュラムへの移行を意識した各専門領域会議やカリキュラム会議、教員会議を行った。2022年度は旧カリキュラムと新カリキュラム並行の運用、教育実施方針の共有、実践、授業評価の年次推移(前年比較)、フィードバック方法、運用方法の検討などの課題に取り組んでいく。また、従来の学習支援に加えて、入学前を含めた開始時期、個別支援の必要性の検討、教員の質向上のための目標管理、優秀な教員確保のための法人施設間人事交流についても意見交換を行いながら取り組んでいく。	特になし
IV 学修成果	3. 7	3: 適切
	2021年度の国家試験合格率は、看護学科、助産学科ともに100%であった。2021年度卒業生のうち就職希望者の就職率は看護学科・助産学科ともに100%であった。2021年3月現在、看護学科1861名、助産学科387名の卒業生を輩出している。同窓会が組織されており、専任教員、専門看護師、認定看護師、移植コーディネーター、また社会医療法人愛仁会の中での管理職として活躍している人材が多数いる。卒業生のうち法人内での認定看護師は19名、特定行為研修修了者は6名。2022年度は国家試験合格率および就職率100%を継続しつつ、卒業生の就職後のフォローの効果的な方法についても検討していく。	卒業3年後の状況(就職継続など個別状況)について調査してフォローすることも必要
V 学生支援	3. 5	3: ほぼ適切
	2021年度の退学率は、看護学科3.8%、助産学科6.7%であった。退学理由は、進路変更、体調不良、その他であった。法人内施設で就業している卒業生の母校訪問に対応した。来校およびオンラインで合計71名が参加した。経済的側面に対する支援については、2021年度より貸与に変更したが、法人奨学金制度を維持している。また、日本学生支援機構奨学金の申し込み希望者の把握と支援を行っている。保護者に対しては、コロナにより開催ができなかった保護者会の替わりとなる保護者アンケートを行い、意見に対する返答や対応により、学校の教育方針の理解と協力を得た。2022年度は、退学者を極力0名近づけるために学生個々の状況把握と教員からの声掛け強化など支援体制の整備が必要と考	退学理由の詳細(時期、きっかけ、どのような進路変更か)について分析して、対策を検討することも必要

	える。1年生にはカウンセリング体験を試みつつ、保護者との連携強化も図っていく。また、目安箱を設置し、学生からの意見に対して教育的観点から対応していく。コロナ禍におけるインターンシップ運用によって学生の就職イメージの具体化につなげ、就職後の定期的なフォロー、相談体制も構築していく。	
VI教育環境	3. 5 2021年度は、コロナ禍で感染対策委員会を新設し、教職員および学生の感染予防策の推進活動を行った。また、防災に対する意識向上のために防災・安全管理の訓練を年に2回実施した。2022年度は、感染対策委員会での活動結果を学生や教職員に効果的に伝達するシステム作りの検討が必要と考える。また、コロナ禍で実施できなかったインターンシップの運用再開の検討のほか危機管理委員会を発足させ、危機管理マニュアル整備の検討も進めていく。	3: ほぼ適切 コロナ禍でも積極的に対面授業ができるよう工夫を継続してほしい
VII学生の募集と受入れ	3. 8 2021年度のオープンキャンパスはコロナ禍での登校制限やオンライン開催との併用を余儀なくされたため、実際の学校の雰囲気を見学、体験する機会を逸し、学生の進路先選定に影響を与えた可能性がある。2022年度は感染対策徹底のうえオープンキャンパスをできる限り対面開催とし、開催後の学生フォローの強化も行っていく。優秀な学生の確保のためには競争倍率を増加させる必要があり、進路相談会や高等学校訪問、予備校訪問の強化はもとより、当校のPRポイントを明確にし、看護大学や他の専門学校との差別化を行いつつ、ホームページ、学校案内のリニューアルとSNSを活用した広報ツールの拡大・強化を図る。	4: 適切 優秀な学生の確保を継続するためにも学校の強み・弱みを十分に分析し、法人としての強みをPRすることが必要
VIII財務	3. 8 毎年、年度前に計画した収支予算案をもとに経費削減を検討しながら毎月の予実管理を適正に行っている。学生の就学支援に関する補助金ははじめ、学校運営に関連する補助金の確保のため、漏れがないように申請を行っている。2022年度は、看護学科、助産学科ともに定員充足に向けた募集活動と合格者選定を行う。設備投資について築9年を経過しており、今後、計画的な更新・修繕を行っていく必要がある。また、学生、教職員のモチベーションのために必要な支出と冗費削減をバランスよく検討する。	4: 適切 特になし
IX法令等の遵守	3. 6 保健師助産師看護師法施行令第14条規定に基づく報告、統計法に基づく学校基本調査等、文科省、厚生労働省、自治体からの要請に応じた調査に適切に対応している。毎年自己点検・自己評価を行い、その結果を学校関係者評価委員会で再評価されたものをホームページおよび法人年報で公開している。学校運営評価については、私立専門学校等評価研究機構の第三者評価受審により一定の評価を得ていること、学校関係者評価、教育課程編成委員会、講師会議等、法人内外における学校外部関係者から有意義な評価、意見交換を行える機会が増えている。	4: 適切 特になし
X社会貢献・地域貢献	2. 9 学校施設を学校祭事以外に地域住民に開放していないが、コロナ禍となってからはそれも全く途絶えている。地域に開かれた学校とするため公開講座を開催するなど企画はあるが実行されていない。オープンキャンパスの企画の一つとして検討している。また、2022年より災害時マニュアルの改訂に着手し、学校施設の災害危機時における使用について検討を始める。人材派遣を活かして看護助産教育における後進指導や啓蒙活動には継続してその引き受け役割を果たしていく。国際交流においては、コロナ禍の副産物としてオンライン授業の利便さを知り得たことから、海外にいるネイティブ講師に英語科目の講師依頼交渉が成立でき、2022年度4月より開始している。講義内容の充実にも努める。	3: ほぼ適切 地域への会場提供やボランティアに参加するなど学校・病院の特徴を地域にアピールしてほしい
評価基準	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切